

# そろいのユニフォームがつなぐ故郷への思い

## 広野町出身の7人が高体連バドミントン県大会に出場

6月6日（金）から9日（月）まで、いわき市総合体育館で行われた高体連バドミントン福島県大会に、広野町出身の7人の高校生が出場しました。

彼らのユニフォームは、背中に「東北に春を告げる町 広野」という文字が入っています。7年先輩のおがやまようすけ小島山陽介さんが提案し、脈々と後輩に受け継がれているものです。通っているのは湯本高校、磐城高校、勿来工業高校、好間高校と分かれています。みな故郷への思いを胸に大会に臨みました。

7人を代表して田村章悟さんは、「中学校2年生のときに震災にあって、通う学校がバラバラに分かれて、最後の大会に出られず悔しい思いをした。通う高校は違っても、先輩も着ていたそろいのユニフォームと一緒に大会に出られて嬉しいし、誇りに思う。最後だから悔いのないように精一杯試合で頑張りたい。大会は終わっても、故郷への思いでつながっているから、この7人の友情はずっと続くと思う。」とコメントしました。

▼左から山内一希さん、阿部俊介さん、根本勇輝さん、田村章悟さん、遠藤大志さん、長谷川隆弘さん、大浦匡登さん



▲背中に「東北に春を告げる町 広野」の文字



僕らを結ぶバドミントン▶

# 子どもたちの笑顔が見える、

# 笑い声が聞こえる



## 放課後も楽しく学ぶ

### ひろの元気教室がスタート

6月4日（水）から、広野小学校で放課後子ども教室が始まりました。火曜日から木曜日までの午後3時15分から4時まで、宿題や運動、遊び、調理実習や習字をして過ごし、スクールバスの待ち時間を有効に使っています。

初日は、自己紹介の代わりに友だちによる紹介をしました。友達に褒められると、みんな照れていました。

次に、この教室の名前決めをしました。たくさんの候補が出て、なかなか名前が決まりません。とうとう終わりの時間が来てしまい、名前の決定は翌日に持ち越しました。そして、2日目に「ひろの元気教室」と命名しました。



◀友達に褒められると照れるね



▲放課後のひとときを楽しく過ごす

◀教室の名前を考える子どもたち



## みんな泥だらけ

### 広野町がんばっ会「田植え体験会」

6月1日（日）に広野町東下集会所近くの田んぼで、広野町がんばっ会の「田植え体験会」がありました。

最初に、集会所で今回の田んぼを貸してくれた新妻良平さんから、田植えの仕方を教わりました。次に、アヒルを使った特別栽培米を生産している田んぼへ移動して、いよいよ田植え体験の始まりです。

子どもたち10人と保護者が参加して、立っただけでも汗ばむ陽気で、慣れない田植えにみんな大汗をかきました。

足がなかなか抜けなくて、転んだり、尻もちをついたりする子が続出。でも、泥なんて、一度付いてしまえば、後はへっちゃらです。田植えの後、お風呂もお借りしましたが、待ちきれずに用水路の水を掛け合う光景もありました。その後、これから田んぼで虫取りや雑草取りに働く、生後5日目のアヒルのひなを抱かせてもらい、「かわいい」と歓声をあげていました。

最後に、集会所に戻って、みんなでお昼ご飯を食べました。おにぎりともそ汁とキュウリの浅漬けが出て、体を動かした後の空腹を満たしました。

一度泥が付いたら後はへっちゃら▶



◀このアヒルたちも仕事をします

▼なかなか足が抜けません

